

## 【講演の概要】

《演 題》 『若者からみた宮崎の地域活性化とは』

《講 演 者》 宮崎大学 地域資源創成学部 外山 開成 氏

### 《概 要》

#### 1. 地域活性化とは

- 「地域活性化」と言っても抽象的で曖昧な表現だが、震災後の宮城県石巻市でのインターンシップ期間中に沢山の大人たちに出会い「地域活性化」を体感。水産加工会社の次期社長と新規事業の立案プロジェクトに携わる中で、当事者意識を持って真っすぐに課題解決に取り組む大人たちの姿を見た。その取組は、「復興」ではなく「未来の地域をどうしたいか」という視点で、マイナスからプラスに持っていくというのではなく、1つの地域が未来に向かって走っていくような印象を受けた。この経験により、「地域活性化」とは「自分たちの好きな地域が、自分たちの好きな地域であるように努力し続けること」なんだと感じた。
- 「地域活性化」には、再生・維持・発展のフェーズがあり、どう進んでいくかの正解がない中で、ビジョンを持って未来に進んでいくような一連の動きこそが「地域活性化」だと感じた。



【外山氏による講演】

#### 2. 地域活性化における人口流出とは

- 宮崎県においては、進学や就職の時期に、県外への転出が多くなっている現状があり、これは若者と地域活性化の関わりを考える上で重要な課題。
- 地域活性化の構造イメージとして、「地域経済の活性化」という経済の基盤としての動きがあり、その上に、町づくりや人材育成、コミュニティ進出等の諸活動として、「ありたい姿を目指す高次の地域づくり」があると考え、前者の地域経済の活性化を担う人材を「量的人材」、後者の地域づくりを担う人材を「質的人材」とした。
- 人口流出というと、よくこの地域経済の担い手（量的人材）の喪失と捉えてしまうことが多いが、高次の地域づくりには、地域を理解し、未来の地域のために当事者として取り組む人材（質的人材）が必要不可欠だと思う。すなわち人口流出というのは、単に労働人口が減るということだけではなく、地域づくりの担い手が減ってしまうんだという捉え方をしながら、それをどうするかという議論が必要。

#### 3. 質的人材の喪失の種類

- 「質的人材」とは、地域を理解し、未来の地域のために当事者として取り組む意思のある人材のことを言う。
- 「質的人材」の喪失には、3種類あると考える。一つ目は、そもそも、地域に対して興味を持っていない「質的人材の不在」。二つ目は、地域に対する貢献の意思はあるが、そのためのきっかけやそれを発揮する場がない「質的人材の機会損失」。三つ目は、地域に対して何か還元したいという気持ちは持ちつつも、その時の環境要因などによって、地域から転出してしまう「質的人材の流出」。

#### 4. 若者と地域活性化

- 宮崎の学生が、将来、質的人材になり得るのかを確かめるために、宮崎大学の地域資源創成学部の学生にアンケートを実施。全体としては、地域活性化への興味は何となくあるけれど、実際に自分が地域活性化の担い手となっているイメージは湧かないという意見が多く見られた。
- 担い手となるイメージがない理由としては、「何が地域活性化に繋がるのか分からない」や「公務員ではなく、民間志望なので地域活性化に密接するイメージがない」などの回答がある一方で、担い手となるイメージがある理由としては、「学んだことをアウトプットする機会があった。将来も必ずある」や「自分の周りにお手本がいるからイメージできる」などの回答があった。
- 地域活性化に携わるロールモデルとの出会いであったり、地域で成功体験する機会があれば、「担い手となるイメージがない」と回答した学生たちの機会損失を減らすことができ、担い手として活躍するイメージを持つ学生が増えるのではないかな。

#### 5. 若者が求めるもの

- 若者たちは、何かを成し遂げたい、力を試したいという想いはあっても、やりたいことが分からない、一人でやりきる自信がない、よく分からないことに時間を浪費したくないと保守的になり、行動に移すことが出来なくなっているのではないかな。



【講演の様様】

- そんな若者に必要な支援とは、

できるだけ話を聞いて寄り添ってあげることや、学生の興味の芽を見つけて、選択肢を与え、背中を押して最後まできちんとサポートすることだと思ふ。その活動の中で、若者の挑戦と地域をうまく掛け合わせることが出来れば、その経験が出来た学生にとって「自分のやりたいことが出来る地域」だと考えるようになり、若者の地域に対するイメージも変わるのではないかな。

また、若者にとって魅力的な切り口（興味を引かせる工夫）も必要ではないかな。

#### 6. まとめ

- 地域活性化とは、自分が好きな地域が自分が好きな地域であり続けるよう努力し続けること。
- 若者の人口流出には、「量的人材」の流出と「質的人材」の流出があり、経済的基盤を担う「量的人材」の流出は深刻だが、とって代わることのできない地域づくりを担う「質的人材」が流出（喪失）することにも焦点を当てるべきなのではないかな。
- 「質的人材」の喪失は、不在・機会損失・流出の3種類があり、それらを解決するためには若者のやりたいことと地域を掛け合わせる動きを促進させながら、地域活性化のきっかけとなる種を蒔き続けることが必要である。
- 若者と企業の交流を通じ、少しずつお互いのギャップを埋めて行き、若者が地域活性化に貢献出来る宮崎でありたい。